

## タラノア対話（サマリー）

### 1 見出し

「今世紀後半での温室効果ガス排出量実質ゼロ」の達成に向けて

### 2 目的

「今世紀後半での温室効果ガス排出量実質ゼロ」の達成に向け、国と国とが様々な利害対立や軋轢を乗り越え、より高い削減目標に向けた努力が重ねられるよう、地方自治体の立場から、対話に参加します。

### 3 概要

京都市は、京都議定書誕生の地としての誇りと使命感を持ち、市民や事業者の皆様等と協力し、省エネの推進（エネルギー消費量27.2%減）、ごみの減量（ごみ量50%減）、人と公共交通機関優先の「歩いて楽しいまちづくり」（マイカーで京都を訪れる人の割合が1/5に減少）など、先進的な取組を推進してきました。今後は、日本の自治体で初めて今世紀後半の温室効果ガス排出量実質ゼロを明記した戦略「プロジェクト“0(ゼロ)”への道」に基づき、地球温暖化対策を一層推進していきます。また、温室効果ガスの大排出減である都市の責務を示した「持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言」に基づき、都市間連携による地球温暖化対策の促進を牽引します。